

## 知識を対話力に変える学び方 事例2

## 香川大学 経済学部

## 現場主義に基づく地域づくり参画型教育

実践の現場で成長する  
コミュニケーション力

地域社会で上手にコミュニケーションを取りながら、現場の大切さを認識し地域に貢献できる人材の育成に取り組み香川大学経済学部。「現場を知らずして、物事の本質はつかめない」をコンセプトに、学生は地域活性化プログラムで大きな成長を遂げています。

## 相手にイメージさせる

## コミュニケーション

香川大学の経済学部では、地域の中に学生が入り地域住民と一緒に対話し考えることで、地域が抱える課題の多面性を理解し、解決に取り組み人材育成プログラムを行っています。

本プログラムの統括責任者である経済学部の原直行教授は、学生が地域社会の現場で学ぶ意義について、「経験」をキーワードに次のよう

に説明します。

「社会で仕事をしている人と1対1で向き合うことで、学生はごまかしのない経験をすることになり



原 直行 教授

ます。教師に対しては適当にはぐらかすこともできませんが、現場ではそうはいきません」。

そのような現場を経験することで、自分の考えを相手に具体的に、イメージしやすい形で伝えられる力が身につくといいです。

「地域の中では、学生は『一体何がしたくてここに来たの?』と問いかけられることになります。それに答えるためには、自分が一番したいことは



香川まちめぐり「まち歩きコース」で直島を紹介する小西さん

何かを考え、相手に分かってもらえるように伝える必要があります。つまり、コミュニケーションの一番前提となるものを地域の人に教育してもらうことになるわけです。学生は概して説明が下手なものです。それは相手がイメージしやすいように説明しなければ伝わらない、ということが分らないからです。地域の現場でさまざまな世代の方々と触れ合う経験をした学生は、自分の考えを相手に